

（業大賀久校長）は帶広三條高校（台浦英則校長）の生徒に対し、同校でインクルーシブ教育の実際を知る機会を提供した。帯広養護の教員による講義やアダプテッドスポーツの一つ「ボッチャ」の体験を実

帯広養護の業天校長は、教員のなり手不足の解消を目指し、管内校長間で情報共有を図ってきた。道教委の道CLASSプロジェクトの指定を受けている帯広三条高は、本年度から生徒の進路希望に応じた類型別探究活動を進めていること

西山教諭は、特別支援学級在籍者数の推移を示し、平成23年から令和3年にかけて約2倍に増加していることを解説。多様性に対する考え方が広まる中「つながる」「一緒に生活する」といった共生社会の大切さをた。

施。世の中や身の回りのこと
に関心を持ち、自ら考る
て行動する大切さを伝え
た。

職業を目指す帯広二条高2年生約50人が来校。帯広養護で教務部長を務める西山雄基教諭が講義を担当し

A black and white photograph showing a group of approximately ten students in a school setting. In the center foreground, a young man in a wheelchair is seated, facing towards the right. He is wearing a light-colored t-shirt and dark shorts. Several other students are standing around him; some are looking down at him, while others are looking towards the right. The background shows a wall with windows and a door, suggesting an indoor hallway or common area of a school.

から、教育・スポーツの分野を探究する生徒の受け入れを帯広養護に打診し、今回の講義が実現。インクルーシブ教育の実際を学び、職業選択への意欲醸成を目的としている。

一 説いた。

老若男女、障がいの有無を問わず参加できるアダプティッドスポーツを紹介した。目標とするボールを目標に投げて近づける競技「ボッチャ」を実際に体験＝写真

II。生徒たちはアイマスクの着用や利き手の固定、車いすの使用によって身体障がい者の日常を体感しながら臨んだ。

いことがつらい」など当事者の声を紹介し「身の回りのこと」に関心を持ち、自分なりに考えていくことが大切」「夢や思いを育てながら学生生活を過ごしてほしい」と伝えた。

帯広三条高生にインクルーシブ教育講義

身の回りに関心持つて

帯広養護 ボッチャ体験も

